

【TeleOSprogrm2022- 1 土屋直人先生のご案内】

頰椎神経根症に対する顕微鏡視下頰椎前方椎間孔拡大術 (MacF) -transuncal approach-
Microsurgical anterior cervical foraminotomy (transuncal approach) for cervical
radiculopathy

品川志匠会病院 脊椎外科 脳神経外科医

土屋 直人先生

NAOTO TSUCHIYA, MD

Department of Spine Surgery, Shinagawa Shisyokai Hospital

【講師略歴】

浜松医科大学付属病院 脳神経外科

聖隷浜松病院 脳神経外科

新庄市民病院 脳神経外科

清水厚生病院 脳神経外科副医長

焼津市立総合病院 脳神経外科医長

県西部浜松医療センター 脳神経外科副医長

浜松赤十字病院 脳神経外科部長 兼任 リハビリテーション科部長

総合青山病院 脳神経外科部長 兼任 リハビリテーション科部長

すずかけセントラル病院 脳神経外科部長

【講演内容】

頸椎神経根症に対する顕微鏡視下頸椎前方椎間孔拡大術は頸椎後方椎間孔拡大術と相反して頸椎前方より頸椎神経根を除圧する術式である。後方法はわが国の整形外科領域では広く行われているが前方法については最近脳神経外科領域で行われるようになって来た。その第一人者は脳神経外科の脊椎外科医の土屋直人先生である。

本手術手技ビデオ講演は1900例に及ぶ自験例に基づいて作成したものである。

臨床症状、画像所見、超音波による神経根ブロックなどで罹患神経根を診断する。全身麻酔下で仰臥位で行う。頸椎前方より特定された uncus を慎重にハイスピードドリルで削り骨性及び軟部組織を除去することによって特定された神経根を前方より除圧する。椎間固定は行わない。椎骨動脈が近傍を走行するので細心の注意が必要である。図-1)

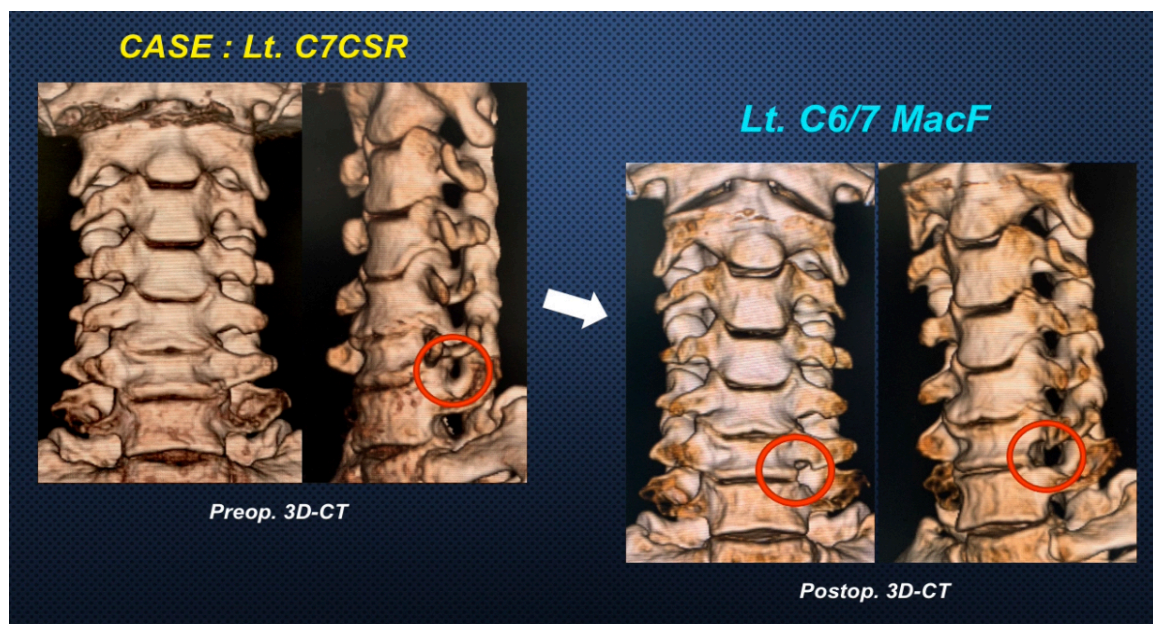
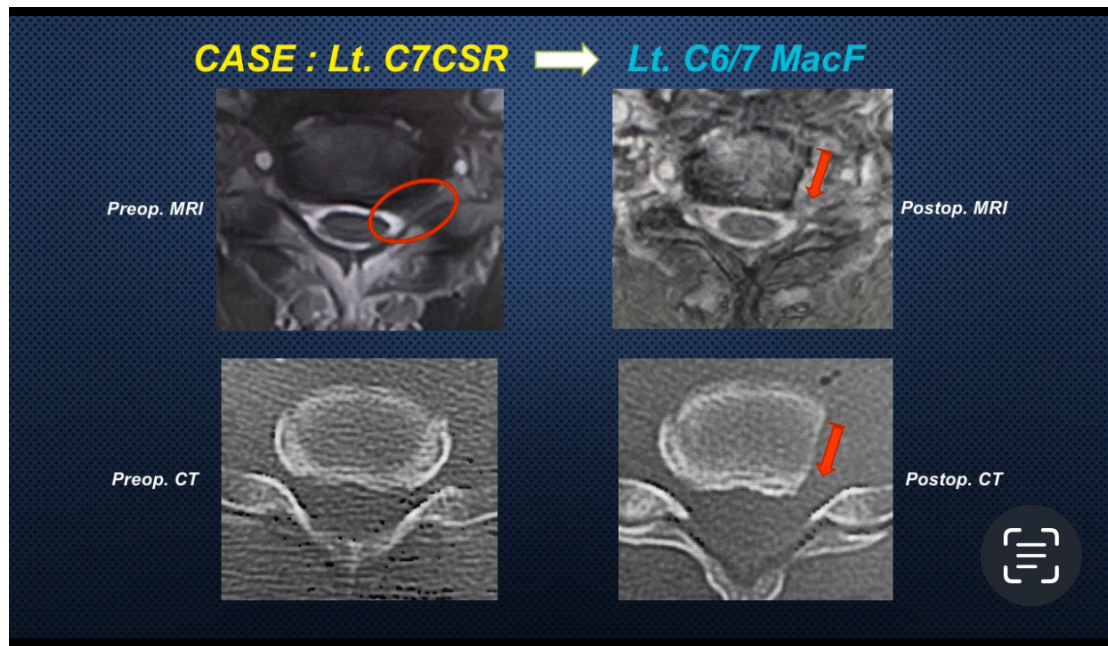
は C6/7 の左 C7 神経根症の術前術後の MRI と CT 画像である

図-2 は過去の頸椎前方固定術後に遺残した症例に対する MacF 除圧術前後の CT 画像である。

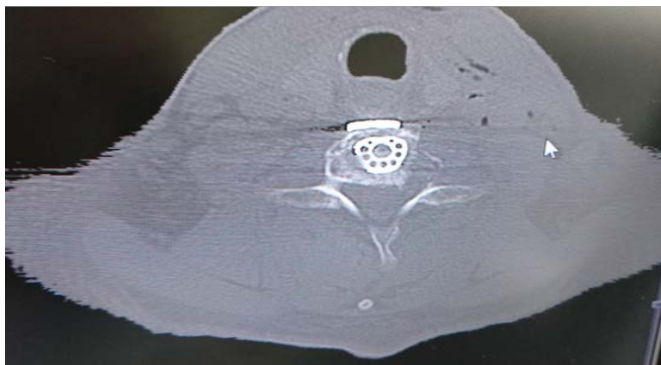
【受講者へのお願い】

MacF の適応、成績、合併症については講演者に直接質議していただきたい。

このビデオ講演とその後質疑応答にのみでは手術手技を理解するのは困難であると思われる受講者は土屋医師の手洗い手術見学が可能である。申し込みの受付は当日行います。



図一 2



募集人数：10名

応募資格：TeleOSprogram 会員（無料）

応募期間：2023年12月16日より

応募方法：①氏名、②所属施設名と所在地、③メールアドレス、④携帯電話番号を

teleos-office@jpstss.jp宛に送付する

受講料：無料